

電照栽培におけるスプレイギクの品種特性について

柴田 浩・水越 洋三・畠山 順三

(秋田県農業試験場)

Characteristics of Varieties of Sprays Chrysanthemum in Light Culture

Hiroshi SHIBATA, Yozō MIZUKOSHI and Junzō HATAKEYAMA

(Akita Agricultural Experiment Station)

ま え が き

スプレイギクは摘蕾、摘芽をほとんど行わず省力的に切花生産でき、生育が早く、水あげ花もちのよい品種が多く、また、色彩が豊富でバラやカーネーションなどと同様に洋花として利用でき、生活様式が洋風化している現在では和ギクとは違った切花として注目をあつめている。

このスプレイギクの電照適応性を明らかにするとともに、本県におけるスプレイギクの暮れ出し電照栽培技術の資とする目的で、品種別に生育、開花等の特性について検討したので結果を報告する。

1 試 験 方 法

供試品種： ピンクマール他 16 品種。

供試条件： 表 1 の通り

表 1 供試条件

区 名	温度条件	電 照 期 間	点 時 間 灯 時 間 帯	加温開始 時 期
A-5	最低気温	8月15日～9月20日	深夜 12:00 ～2:30	11月4日
B-5	5℃	8月15日～9月30日		
B-10	最低気温	8月15日～9月30日		
C-10	10℃	8月15日～10月10日		

耕種概要： さし芽時期 7月4日、定植 8月4日、摘心 8月14日、栽植距離25×16cm(ベット幅1m)、施肥量(a当り)基肥；堆肥250kg、硫酸燐安12号12kg、燐燐7kg、菜種粕4kg、FTE 0.3kg、追肥；NK化成23号1.5kg。

2 結果および考察

1. 採花時期

採花期についてみると(図1)、マール系、ドラマチックはA-5(9/20 打ち切り5℃)で11月下旬、B-5(9/30 打ち切り5℃)で12月上旬、B-10(9/30 打ち切り10℃)で12月上旬、C-10(10/10 打ち切り10℃)で12月下旬であった。

スーパー系、ホーワ、アグロ、レッドネロ、ホマロはA-5(9/20 打ち切り5℃)で11月下旬、B-5(9/30 打ち切り5℃)で12月中旬、B-10(9/30 打ち切り10℃)で12月上旬、C-10(10/10 打ち切り10℃)で1月上旬とな

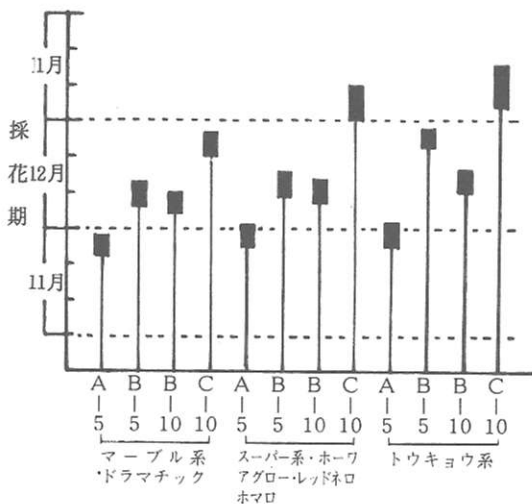


図 1 採花時期

り、マール系やドラマチックより5～10日程度の遅れであった。

トウキョウ系はA-5(9/20 打ち切り5℃)で11月下旬～12月上旬、B-5(9/30 打ち切り5℃)で12月下旬となり前記の各品種より20～25日程度遅れた。B-10(9/30 打ち切り10℃)では12月中旬で、B-5と電照打ち切り時期が同じにもかかわらず10日程度早まった。C-10(10/10 打ち切り10℃)では1月上旬であった。

2. 切花長と分枝発生位置

切花長と分枝発生位置についてみたのが図2である。

マール系の切花長は特に長く、しかも電照打ち切り時期が遅れるほど明らかに大きくなった。分枝は、いずれも中間部から発生しており、電照打ち切り時期によるちがいはほとんどなかった。

スーパー系、トウキョウ系、ホマロ、ドラマチックの切花長は、A-5(9/20 打ち切り5℃)で100cm程度、その他の電照打ち切り時期では120cm程度であった。分枝発生位置は比較的高く(上から1/5程度)、しかも電照打ち切り時期が遅れるほど高くなる傾向を示した。

アグロ、ホーワ、レッドネロの切花長は、A-5(9/20 打ち切り5℃)で90cm程度、その他は120～130cm程度であ

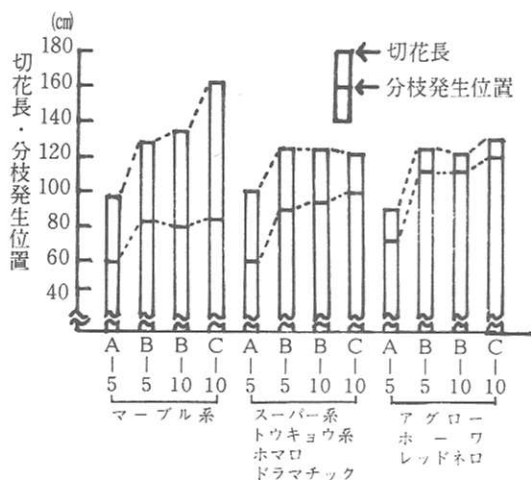


図2 切花長と分枝発生位置

った。分枝発生位置は非常に高く上から $\frac{1}{10}$ 程度であった。

3. 分枝長と開張性

分枝長と開張性についてみると(図3), マーブル系では分枝長が20~50cm, 開張性が10~30cmでいずれも電照打ち切り時期が遅れるほど大きくなった。

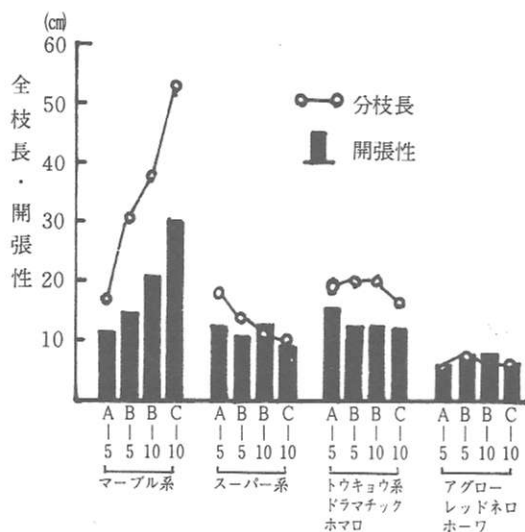


図3 分枝長と開張性

スーパー系の分枝長は18~10cmで, 電照打ち切り時期が遅れるほど小さい傾向がみられた。開張性は, 打ち切り時期に関係なく10~15cm程度であった。

トウキョウ系, ドラマチック, ホマロの分枝長は20cm程

度, 開張性も15cm程度で電照打ち切り時期による差はほとんどなかった。

アグロ-, レッドネロ, ホマロでは, 分枝長, 開張性とも電照打ち切り時期に関係なく5~10cmで極端に小さかった。

4. 分枝数と花数

図4にみられるように, マーブル系, ドラマチックの分枝数は7~4本で電照打ち切り時期が遅れるほど少なくなる傾向を示した。全花数は, 10~13花で分枝1本当りの花数は3~4花であった。

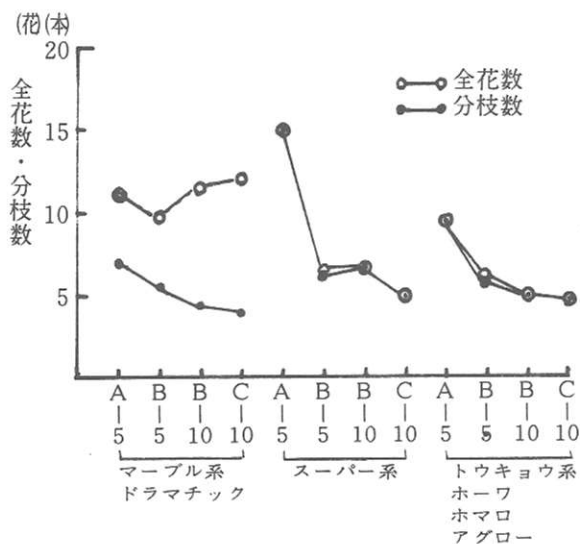


図4 全花数と分枝数

スーパー系の分枝数は, A-5(9/20 打ち切り5℃)で15本であったのに対し, 9/30以後の打ち切りでは5~7本と激減した。この品種は分枝1本当たり1花咲である。

トウキョウ系, ホマロ, ホマロ, アグロ-などの分枝数は, 早い電照打ち切り時期では10本程度であり, 電照打ち切り時期が遅れるにともなって漸減した。これらの品種もスーパー系と同様, 分枝1本当たり1花咲であった。

以上の結果, 年末出しの電照打ち切り時期は, マーブル系やドラマチックでは10月10日頃, トウキョウ系では10月1日頃, その他の品種では10月5日頃が適当であると思われる。

しかし, マーブル系については, 切花品質からみたまし芽時期について検討する必要があると思われる。

スーパー系, トウキョウ系, ホマロなどの管咲き(スパイダー咲き)では, 茎や分枝が軟弱なうえ花径が大きく頭下りをおこす傾向があり, 今後, 施肥量, 栽植距離等について検討を要する。